

平成29年度 総務生活委員会視察報告

1 岩手県釜石市オープンシティ戦略

(1) 事業の概要

震災以降ハードウェアの復興から暮らしへの再生がすすみ、持続可能な町づくりへと挑戦している。そのため、市外から積極的に人を受け入れ、その「釜援隊」というフリーランスのコーディネータたちが、あらゆる分野で活動を展開している。

(2) 事業の成果

市内での子育て、教育などへの施策のほかに、積極的に市外に募集をかけ人材を受け入れ、復興のための業務だけでなく起業も進めたことにより、顕著な人口の社会増が認められ、定住が進んだことにより出生率も上昇している。

ラグビーのワールドカップ開催（2019年）に向け、競技場建設に伴って市民の意識も高揚していることがうかがえた。



2 釜石市宝来館「震災からの復興について」

震災からの復興について、宝来館女将岩崎昭子さんから、震災当時の様子、復興から現在に至るまでの取り組みの話を伺った。その話の中でも「釜援隊」の果たす役割が大きいことがわかった。

3 岩手県北上市「あじさい都市きたかみ公共交通網形成計画について」

(1) 事業の概要

北上市は市街地に加え、温泉や登山など観光資源も豊富な中山間地を抱えている。あじさい都市とは、各地域拠点（コミュニティ）をあじさいの花にたとえたもので、それをつなぐのが公共交通網のシステムである。この計画は平成29年から32年を

目途にした整備計画である。各地域の特性に合わせた工夫は、民間事業者とタイアップしているとはいえ、本市の地域振興バスにも応用できるところが多い。

(2) 事業の成果

高齢化が進むことにより中山間地と市街地の拠点を結ぶことは重要な視点であり、地域の特性、利用者のニーズに合わせた工夫をしている。行政と民間との役割分担、わかりやすい乗り場、わかりやすい運行時間（毎時定刻）、街中のターミナルの拡充などである。

温泉・景勝地などの幹線交通に対する取り組みも同時に行い、新規の利用者獲得の成果も上がっている。



4 宮城県白石市「移住定住促進施策について 住んでみっぺ！しろいし」

「すまいる白石」

(1) 事業の概要

当市は、仙台・福島への通勤が可能。その利をPRし、市に転入し新築住宅や中古住宅を取得した人に対して30万円、更に市内建設業者を利用した場合30万円を補助している。その他にも新婚家庭に24カ月間にわたって月5千円の補助を行う。空き家や仕事・暮らしなど情報発信、住宅フェアなどでの相談、移住支援センターや田舎暮らしのお試し住宅（2戸）を置く。

(2) 事業の成果

UIJターン支援は、人口の社会増など一定の効果を上げている。住宅供給だけでなく、医療・教育への支援、移住に関わる不安などへも相談体制（女性スタッフ）を充実させている。その他にも、観光産業を活かし交流人口の増加にも力を入れることにより、市のプロモーションも図られている。